プロジェクト研究10　児童文化財に関する研究

映像メディアと児童の受容態度の分析(2)

― 成人との比較において ―

研究第8部　星　美智子・湯川礼子
研究第7部　高橋種昭・須永　進
嘱託研究員　大内茂男（上越教育大学）
岡田　陽（玉川大学）
仲佐秀雄（日本民間放送連盟）
山本　保（厚生省児童家庭局育成課）

はじめに

テレビやビデオなど，映像メディア利用の場においては，成人と児童の両者が同一の時間と空間に同一の映像を受容する機会も多い。映像メディアは，「見る」ことで「解る」「楽しむ」部分を共有することができるからであろう。つまり，大衆文化の一つの機能である「成人の幼児化，幼児の成人化」―成人と児童の隔壁の希薄化―の側面をみることができる。この点，家庭でのテレビやビデオ視聴は，家族成員の共通体験の場，コミュニケーションの場を拡大してきた。だが，一方では，テレビが日常生活に確実に定着し，家族の成員が占有テレビを持つほどに普及した現代，むしろ，テレビは個人とテレビの結びつきを強め，家族間の対話の欠如や世代間の断絶をもたらすことにもなっている。

このような対峙する二つの方向のなかで，テレビ諸課題の解明の一つとして，われわれは，児童の健全育成のために，世代間交流の観点から映像メディアの受容の分析を研究のテーマとすることとした。

Ⅰ　目　的

映像メディアは，成人と児童とが同時に視聴し共通体験をもつことができる一方，同一映像を受容しても，視聴者それぞれの生活経験の差や映像をよみとる能力の差が受容内容の質を大きく左右する。本研究では，小学2年，5年，中学2年と30～40歳代の母親に，ビデオで同一映像を視聴させ，GSR（皮膚電気反射）測定とビデオの観察によって反応の分析をする。

昨年度は，原爆の体験を語る「戦争を知っていますか。―お母さん水を―」を分析したが，今年度はさらにドキュメンタリー「アフリカ象」とアニメ2本「日本昔噺 かさじぞう」「サザエさん」を加えて，作品による差について検討することを目的とした。

Ⅱ　方　法

1. 手続き

1）提示刺激ビデオの選択と内容

A　原爆体験記　「戦争を知っていますか。―お母さん水を―」

NHKでは1984年から毎年8月に「戦争を知っていますか・子どもたちへのメッセージ」として，戦争を体験した女性たちが語り部となり，スタジオに招いた子どもたちにみずからの体験を語りかける6回シリーズを放映している。その中から3本の候補作品を選び，内容や表現，所要時間を検討して，1987年8月6日放映「お母さん水を……」を選択した。本ビデオは44分であるが，原爆資料館の案内や説明の個所などをカットして36分に編集した。

〔内容〕

放映当時79歳の被爆者坂本文子さんは原爆により，広島市立高女2年生の娘を原爆投下の深夜に，旧制広島高校1年の息子を8月30日に亡くした。この体験をスタジオの中学生に語りかけているビデオである。(36分)。

B　ドキュメンタリー「アフリカ象」

記録的映像として，中央児童福祉審議会推薦2本（アフリカ象，チンパンジー）を含む，大映株式会社映像

事業部制作の「おかあさんだーいすき」シリーズ（全10巻）から選択することとした。1巻ごとに一つの動物の親と子がとりあげられ，「動物の親子たちのすてきな一日を，しっかりウォッチング」とうたわれているように，ただじっとカメラを据えて親子の動きを追っている映像である。各巻30分。ナレーションもなく練習曲風のピアノがBGMとして流れている。10巻の中から比較的動きと変化のある「アフリカ象」を選び，単調な映像をカットして12分弱に編集した。

〔内容〕

群馬サファリワールドのアフリカ象の赤ちゃんと母親のある日の状景。赤ちゃん象が草の上でねころんでいる。そのうち，柵の外の水槽に鼻を入れて遊ぶ。母象が歩いてきて水槽から鼻で水撒き。赤ちゃん象が柵内の空バケツを鼻で転がしてあそぶと母象がきてバケツの持ち手をとる。えさのキャベツを転がす。母象とキャベツを転がしあい，母象がキャベツを食べる。(11分37秒)。

C　アニメ「日本昔噺，かさじぞう」

S社，T社それぞれ，日本昔噺のシリーズを販売している。昔噺の中から，今回の実験対象である小学2年から，5年，中学，母親の年齢を考慮して「かさじぞう」が適当であるとし，両社の「かさじぞう」のビデオを比較して，昔噺が歪曲されずストレートである大陸書房「ビデオえほん館・日本おとぎばなし」の「かさじぞう」を採択した。時間は適切なのでカットなしにそのまま使用する。

〔内容〕

人里はなれた山の中に，夏は畑をたがやし，冬は笠やわらじを編んで細々とくらしている老夫婦がいた。大晦日の雪の降る中を，正月の餅を買うため，じいさまが笠を売りに町に出かけた。さっぱり売れず帰る道すがら，雪の中に立ち並ぶ地蔵をみて，つめたかろうと笠を一つずつ頭にかぶせる。6つ目の地蔵には笠が足りないので自分のかぶっていた手拭いをとってかぶせる。帰って，ばあさまに報告し，いいことをしたと二人で満足して寝ると，夜中に地蔵さまが全員揃って，もち，米，魚，酒と沢山のごちそうを運んできて戸の前に積んで帰るお話。(12分34秒)。

D　アニメ「サザエさん」―カツオの決断力―

フジテレビ放映の「サザエさんシリーズ」数日分から，小学5年生の男子であるカツオが主人公のものを選択し，とくに話のまとまりがある「カツオの決断力」をとりあげることにした。1日分は3話組合せであるが，同日放映の他の2話をカットし，前後にテーマソングをつなげて，約10分のものとする。

〔内容〕

サザエさんの弟カツオ（小5年）が，おやつのとき，妹のワカメと甥のタラのカステラの大きさを比べて自分のを取るのに迷う。父の波平が「男は決断力が必要だ」と叱る。波平自身がゴルフ場で決断力なく迷う話を挿入しながら，カツオが学校で決断力を発揮して掃除当番を替って失敗した話，植木屋がお茶の時間に昼食と日当の話をするのを聞いて弟子入りを決断するなど，数話で構成されている。(9分57秒)

2）実験場面の設定

(1)　被験者をひな段3列に坐らせ，観察記録用ビデオカメラで全員の表情や身動きを納められるようにする。刺激提示ビデオを2台のテレビ受像機に流し，1台は被験者の前方において視聴させ，1台は後方において観察者の反応とテレビ画像を照合できるようにする。

(2)　5人合成抵抗GSRを2台設置し，男子・女子別に測定する。学年別に10名づつ実験する（写真1）。実験手続きの詳細は昨年度紀要を参照されたい。

写真1　実験場面 ―小学2年生―

2. 対　象

玉川学園小学部，中学部および母親（30～40歳）。

刺　激　A

小学生5年	(男) 11	(女) 8	計19名
中学生2年	(男) 9	(女) 8	計17名
母親(35～43歳)			20名

刺　激　B・C・D

小学生2年	(男) 5	(女) 5	計10名
小学生5年	(男) 5	(女) 5	計10名
中学生2年	(男) 5	(女) 5	計10名
母親(32～42歳)			10名

3. 場　所

玉川大学芸術学科表現教育演習室

4. 日　時

刺激Aの実験は '88・1～3月に提示刺激ビデオの選択をし，4月実験用ビデオ作製，6月26日実験。刺激B・C・Dの実験は，'88・10月～'89・2月に提示刺激ビデオの選択をし，3～4月に実験用ビデオの編集を完了，5月20日実験。

Ⅲ　結　果

1. 抵抗値変動の年齢層別の傾向

GSR は興奮の激しい時は急激に抵抗が減ずる。興奮が持続する時は抵抗値が低いところで細かく変動し，持続時間短く頻繁な興奮は抵抗値の変動もはげしい。GSR 測定記録では，抵抗値が低いと振幅の波は高くなる。振幅の型から抵抗値変動をみると，年齢が低いほど変動がはげしい。この点は昨年度もおなじ結果を得たが，今年度は，小学2年生を加えて，一層，この傾向を明らかにすることができた。図1は抵抗値変動の年齢層別の典型的な傾向を示したものである。

2. 反応数

反応としては，抵抗値が低いもの，つまり，反応の大きいものについてとりあげることとした。具体的には，GSR 記録用紙の基底線（感度調整後のペン位置）から3目盛以上に記録された個所をマークして反応ありとした。なお，昨年度の「原爆体験記」は2目盛以上であるが，今年度は2目盛を3目盛に調節した。

1) 提示刺激別

反応数で比較するばあい，提示刺激のタイムがそれぞれ異なるので，各刺激1分間の反応を算出して検討した。表1でみるように，D「サザエさん」の反応数が多いのが顕著であり（1分間，7.4），他は「原爆体験」6.8，

図1　GSRの記録例（サザエさん）

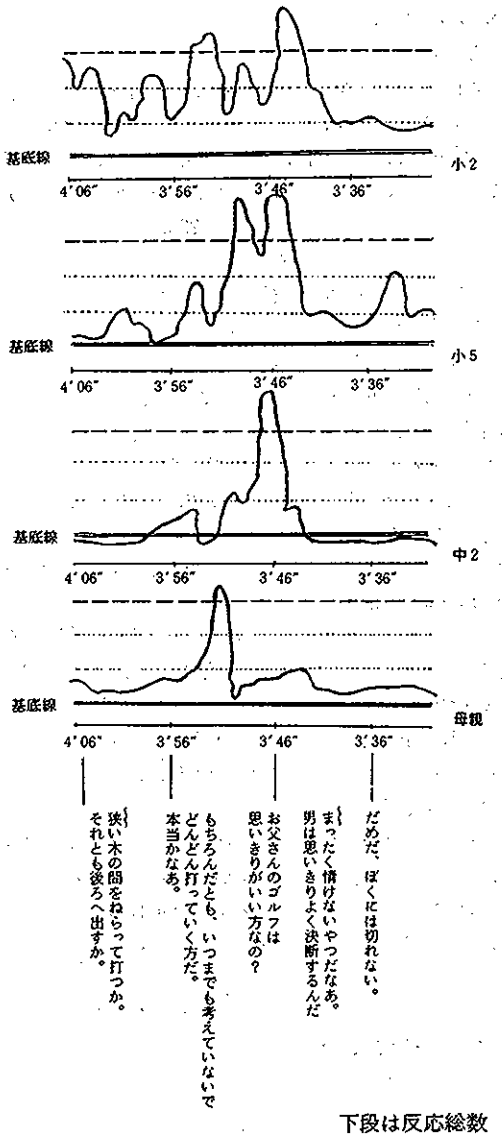


表1　反応回数（1分間）　　下段は反応総数

	小　2	小　5	中　2	母　親	平　均
A　原爆体験記　36分34秒		(8.2) 584	(7.0) 497	(5.1) 364	(6.8) 482
B　アフリカ象　11分37秒	(11.5) 134	(5.8) 67	(4.9) 57	(4.1) 48	(6.6) 77
C　かさじぞう　12分34秒	(8.2) 103	(8.9) 112	(6.6) 83	(2.3) 29	(6.5) 82
D　サザエさん　9分57秒	(9.3) 93	(8.8) 88	(6.5) 65	(4.9) 49	(7.4) 74
B，C，Dの計	(29.0) 330	(23.5) 267	(18.0) 205	(11.3) 126	

「アフリカ象」6.6，「かさじぞう」6.5 の順であるが，大差はない。

2) 年齢別

反応数を年齢別にみるため，A「原爆体験記」を除き，B「アフリカ象」，C「かさじぞう」，D「サザエさん」の1分間の合計で、小学2年，5年，中学2年，母親を比較した（表1，下欄）。これでみると明らかなように，小学2年が29.0，ついで小学5年23.5，中学2年18.0，母親11.3と年齢が高くなるにつれて反応頻数が減じている。このことは，さきの結果1に示された抵抗値変動の形の年齢別傾向と一致している。

年齢別の反応差を刺激別に明らかに把握できるよう，母親の反応を100として，指数に換算してみた。これを図示したのが，図2である。4種の刺激ともに，母親より他の群が高くなっている。「原爆体験記」と「サザエさん」は，年齢が低くなるに従い，なだらかな反応数の増加がみられる。ところが，「かさじぞう」は，母親100に対して中学2年が3倍弱，小学5年が4倍弱と激増し，小学2年は3.5倍と小学5年より減少している。また，「アフリカ象」は，中学2年，小学5年と指数にしてほぼ20づつ増加しているのに，小学2年で急激に増加し，その指数は小学5年の2倍近くにおよんでいる。それぞれの年齢別の変化の度合についての検討は考察にゆずるが，各刺激の特性と結びついていると思われる。

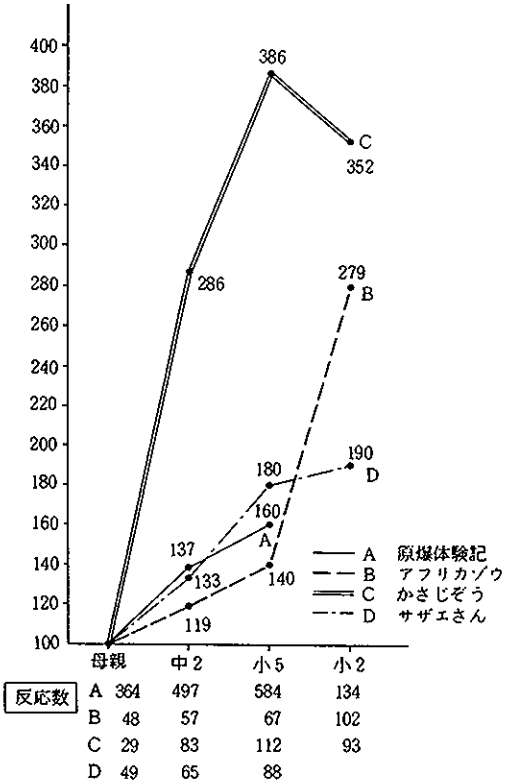
3) 男女別

つぎに，母親を除き，男子と女子別の反応数を比較することとした。表2は，男女別に集計したものであるが，小学2年，小学5年，中学2年，いずれも女子より男子の反応数が多い。また，刺激A・B・C・Dの四種ともに，男子が女子より反応が多くなっている。とくに，「アフリカ象」と「かさじぞう」の開きが著しい。

3. 各群相互の合致

1) 合致率

図2　年齢別比較（指数）



各群の間の反応合致場面数をみるために，総反応を100として，相互に合致した場面数のパーセントを算出した。表3は，刺激種目別に各年齢群間の合致場面率を示したものである。全般に，小学2年と小学5年の合致率が高く，ついで小学5年と中学2年が高いが，刺激種目によって差がみられる。

つぎに男子と女子について，その合致度をみてみる。

表2　反応回数（1分間）　　下段は反応総数

	小2		小5		中2		平均	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
A 原爆体験記			(4.9) 352	(3.3) 232	(4.7) 333	(2.3) 164	(4.8) 343	(2.8) 198
B アフリカ象	(7.4) 86	(4.1) 48	(3.7) 43	(2.1) 24	(3.7) 43	(1.2) 14	(4.9) 57	(2.5) 29
C かさじぞう	(4.9) 62	(3.3) 41	(6.4) 80	(2.5) 32	(4.4) 55	(2.2) 28	(5.2) 66	(2.7) 34
D サザエさん	(5.1) 51	(4.2) 42	(5.7) 57	(3.1) 31	(3.8) 38	(2.7) 27	(4.9) 49	(3.3) 33

表3　反応合致場面数

	原爆体験記			アフリカ象			かさじぞう			サザエさん		
	反応場面数	合致場面数	( )%	反応場面数	合致場面数	( )%	反応場面数	合致場面数	( )%	反応場面数	合致場面数	( )%
小 2：小 5				139	26	(18.7)	128	51	(39.8)	103	30	(29.1)
小 2：中 2				128	32	(25.0)	128	33	(25.8)	98	26	(26.5)
小 2：母 親				128	25	(19.5)	100	15	(15.0)	98	18	(18.4)
小 5：中 2	776	106	(13.7)	89	16	(18.0)	123	39	(31.7)	100	23	(23.0)
小 5：母 親	683	61	(8.9)	87	12	(13.8)	101	15	(14.9)	94	13	(13.8)
中 2：母 親	544	57	(10.5)	83	11	(13.3)	88	10	(11.4)	89	10	(11.2)
小2：小5：中2：母	907	18	(2.0)	166	5	(3.0)	155	5	(3.2)	146	3	(2.1)

図3に示すように，合致度の高い「かさじぞう」と「サザエさん」では42%弱になるが，「アフリカ象」25.7%，「原爆体験記」16.2%である。

男子と女子それぞれについて母親との合致度をみると，図4に明らかなように，最も合致率の高いもので「サザエさん」の女子23.8%である。最も合致率の低いのは「原爆記」の男子8.3%である。どの刺激種目においても母親と女子の方が母親と男子より合致する場面が多いといえる。そして，母親との合致率は，図3と図4を比較してみれば，子どもたちの男子と女子の合致率より，著しく低いことが明らかである。

なお，合致数は最初の抵抗の低下点で検討しており，持続時間を含めれば，合致度は大きく上廻ることになる。

2）合致場面の内容

小学2年，小学5年，中学2年および母親の4群全体の合致場面をとりだしてみる。（「原爆体験記」については，昨年度紀要に掲載した）。

図3　男女の合致

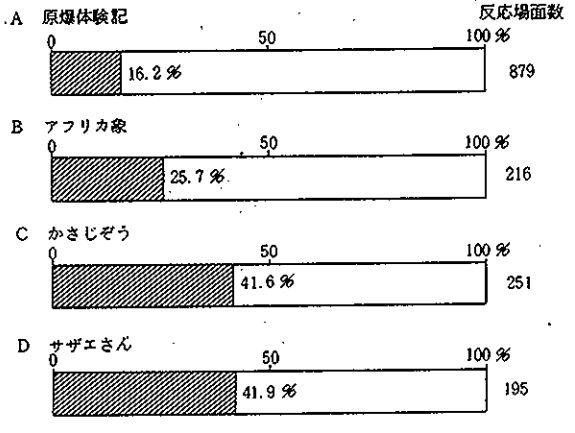
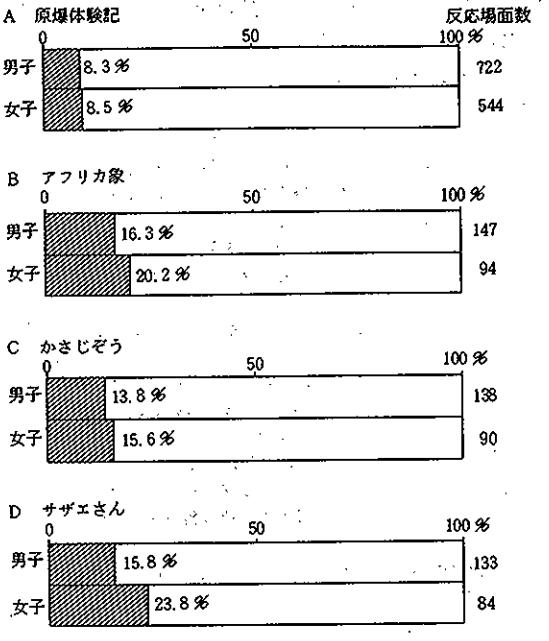


図4　母親との合致



全体の一致

アフリカ象

0'10"　タイトル

0'35"　音楽（ピアノ）が流れ始める。

2'25"　場面転換・音楽もかわる。子どもの象が草の上に腹這いになる

3'35"　子どもの象が水槽に鼻を入れる。

10'45"　母親の象が鼻でキャベツをころがす。

かさじぞう

0′17″　タイトル「かさじぞう」
6′22″　（おじぞうさまに売れ残った笠を一つづつかぶせたあと）「お祈りをすませるとじいさまははあさまの待つ家へと帰りを急ぐのじゃった。」
8′07″　除夜の鐘の余韻が消え山の風景になる。
11′09″　（最後のことば）「大みそかのできごとじゃった。」
12′15″　エンディングの昔ばなしシリーズのキャラクター人形が踊る場面。

サザエさん

4′51″　父がカツオの決断力の無さを叱り，そのあとカツオが「父さんゴルフやってて迷ったことなかった？」と父の決断力についてたずねる。（先きに父がゴルフを打つとき，賞品を選ぶとき，さんざん迷った場面が出ている。）
8′23″　場面が変って植木屋のお茶の時間，「この節は10時におやつ，12時には店屋もの……」
9′00″　エンディングのスキーで転んで大きな雪の穴ができ，「雪男の足あとだ」の吹き出しの場面。

3）各年齢群の特徴的反応

2)において各年齢群の合致場面をとりあげたが，次に，各群について，その年齢層だけにみられる反応をとりあげてその特徴をみてみる。

アフリカ象

小学2年のみ	タイトルの文字が消える ∘2′38″ 母象の足元で子象は草の上で草を食べる ∘3′42″ 子象，水を飲み始める ∘4′20″ 場面転換　母象水槽の方へ歩いてくる ∘7′23″ 子象がバケツの持ち手をくわえて歩く ∘7′55″ 場面転換　母象の後方にバケツをくわえた子象が歩いている ∘9′40″ 母象の足元で子象がバケツをつつく。母象の鼻がうつっている ∘11′23″ ストップモーションで技術の会社の名前（英語）がうつる
小学5年のみ	∘〝あかちゃん〟の字消える
中学2年のみ	なし。
母親のみ	∘10′05″ 母象の顔のアップ（左側）
男子のみ	∘3′30″ 場面転換　水槽の方へ歩いていく ∘8′35″ 母象の顔のアップ（ななめ後）草を食べて口をもぐもぐ動かしている。
女子のみ	なし。

かさじぞう

小学2年のみ	（笠と交換に餅を分けてほしいとおじいさんに言われて） ∘餅屋：うちも商売だしねー
小学5年のみ	∘ナレーション：　人里離れた山ん中に，じいさんとばあさんが住んでおった ∘おじいさん：なんだね，ばーさんや ∘おじいさん：（町から帰っておばあさんに）笠を全部，地蔵様にあげてしもうたんじゃ
中学2年のみ	∘ナレーション：夏は猫の額ほどの畑をたがやし ∘おじいさん：（お地蔵様に）さぞや，頭がつめたかろう ∘おばあさん：（おじいさんから笠をお地蔵様にあげたことを聞いて）そうですか，それは良いことをしなすった。 ∘お地蔵さんたち：頭がぬくいぞ，えんやこら，どっこい♪
母親のみ	∘おじいさん：（笠を売り歩く売り声） ー家にひとつ笠の備えー
男子のみ	∘おじいさん：（家へ帰る途中，地蔵様の前で）こうして座っとっても仕方ないしな。 ∘エンディングテーマ 11′30″ 12′25″ 12′30″
女子のみ	なし。

サザエさん

小学2年のみ	∘波　平：わずかばかりのカステラの大きさを気にするなんて ∘サザエ：（カツオにカステラを切らせることを）さっそく，明日やってみるわ ∘サザエ：（カツオに言う，カステラをワカメとタラに）はやく，切ってあげなさーい ∘カツオ：ぼくの学校の成績も参加することに意義があるといいんだけどなあー ∘カツオ：（中島くんとの会話）ち，ちがうよ，男はすばやい決断力が必要なのさ
小学5年のみ	∘タイトル：サザエさんがスーパーマンになる所

	○先　生：誰か一人，今日，掃除当番，かわってくれるものはいないか ○カツオ：花沢さんに（将来性を）かってもらってもなあー ○舟：（カツオに言う）またどうしてそんなこと（大金持ちになること）考えたんだい
中学2年のみ	○中　島：（豪邸の主人を見て）ふつうの人と同じ顔してるんだけどな
母親のみ	なし。
男子のみ	○カツオ：父さんゴルフやってて迷ったことなかった？
女子のみ	なし。

4. 反応場面の分析

1）「原爆体験記」

昨年度，画像を，語り手・子どもたち・風景・写真・図・アナウンサー・タイトルの7つに分類して，それぞれの反応を年齢別に検討した。今年度は音声の面から，アナウンサーと原爆体験の語りに分け，体験の語りをさらに表4のように分類して，反応を検討した。分類された項目はそれぞれ時間が異なるので，分類項目間の比較ではなく，年齢群別の項目ごとの差をみることとする。原爆体験の語り以外のアナウンサーやBGMの時の反応は小学生に多く，ついで中学生，母親になっている。逆に子どもの応答（母が話りかけ，子どもがそれに応じたり，子どもから話しかける状況の報告）の反応は，母親が一番多く，次が中学生，そして小学生と年齢が低いほど少なくなっている。

2）「アフリカ像」

アフリカ象の母と子の映像は，ことばやナレーションが全くなく，始めから終りまでバックにピアノの曲が流れる。ピアノ曲も単純な練習曲ふうのものの連続である。したがって，映像だけを，母ぞう，子ぞう，母ぞうと子ぞう，タイトルに4分して，それぞれの反応について分析した。表5にみられるように，全体の反応数は小学2年生が圧倒的に多く，他の3群と異なる特徴をみせているが，映像の分類別ではさほど差はみられない。年齢別の傾向をみると，母ぞうと子ぞうの場面は年齢の低い群ほど多く，タイトルは（文字が流れる），逆に年齢が高いほど反応が多くなっている。

3）「かさじぞう」

「かさじぞう」の反応を，音やことばから，会話・ナレーション・台詞の間・BGM・効果音・タイトル他（エンディングなど含む）の6項目に分類し，各年齢群の反応を比較した（表6）。これによると，小学2年生は，他群よりもセリフの間に反応するものが多くなっている。小学5年生は，他群に比較して「会話」への反応が明らかに多くなっている。ナレーションへの反応は中学生や母親に多く，小学生たちに少ない結果になっている。小学5年生は反応そのものがとくに多く，会話への反応も多ことが明らかになった。

表4　原爆体験記　音声（ことば）による反応場面数（年齢別）　( )%

	アナウンサーBGM	中学生への語りかけ	坂本さんの行動・気持	坂本さん以外の人のことば	原爆の状況	子どもの様子	子どもへの働きかけ	子どもの応答	計
小学生	138(23.6)	46(7.9)	120(20.5)	32(5.5)	75(12.8)	54(9.3)	51(8.8)	68(11.6)	584(100.0)
中学生	100(20.1)	36(7.3)	107(21.5)	39(7.8)	57(11.5)	51(10.3)	37(7.4)	70(14.1)	497(100.0)
母　親	72(19.8)	23(6.3)	75(20.7)	19(5.2)	34(9.3)	32(8.8)	49(13.5)	60(16.4)	364(100.0)

表5　アフリカ象　画像による反応場面数　( )%

	母　象 1分33秒	子　象 6分50秒	母象と子象 2分17秒	タイトル 0分57秒	計 11分37秒
小　2	19 (14.2)	72 (53.7)	22 (16.4)	21 (15.7)	134 (100.0)
小　5	18 (26.9)	28 (41.8)	10 (14.9)	11 (16.4)	67 (100.0)
中　2	9 (15.8)	27 (47.4)	8 (14.0)	13 (22.8)	57 (100.0)
母　親	9 (18.8)	24(50.0)	4 (8.3)	11 (22.9)	48 (100.0)

表6　かさじぞう（音声による反応場面数）

( )%

	会　話 7分09秒	ナレーション 1分43秒	台詞の間 0分51秒	BGM 0分30秒	効果音 0分37秒	タイトル他 1分41秒	計 12分31秒
小　2	46 (44.7)	14 (13.6)	11 (10.7)	1 (0.9)	9 (8.7)	22 (21.4)	103 (100.0)
小　5	60 (53.6)	15 (13.4)	7 (6.3)	2 (1.7)	5 (4.5)	23 (20.5)	112 (100.0)
中　2	39 (47.0)	14 (16.9)	2 (2.4)	2 (2.4)	6 (7.2)	20 (24.1)	83 (100.0)
母　親	13 (44.8)	5 (17.3)	2 (6.9)	0 (0.0)	3 (10.3)	6 (20.7)	29 (100.0)

4）「サザエさん」

「サザエさん」の反応について，音声別に，会話・チャイム・台詞の間・タイトル他（エンディング，テーマソングなど）の4種に分けて，各年齢群を比較した。表7にみるように，母親が「タイトル他」の反応が著しく多くなっており，その分「会話」の割合が少く，他の3群と異った反応を示している。「タイトル他」は，タイトルやエンディングテーマで，3分09秒あり，その間画像は早いテンポで絵によるギャグが続いていく（サザエさんがハタキを持って新体操もどきに掃除をしたり，スーパーマンになって会社にお弁当を届けたりなど）。またふき出しのセリフが文字で出たりもする。したがって，他の群では母親のようにギャグや文字に反応することができないといえる。セリフの間への反応は母親と中学生に多くみられる。その他には，「チャイム」(学校内で鳴る)に対して他の3群に反応がみられるのに母親は皆無である特徴がみられた。

つぎに，「サザエさん」に登場する人物別に反応を比較して，年齢群別，男女別の検討をすることとした。年齢群別にみたものが表8である。刺激材として使用したものは，「カツオの決断力」であり，カツオと父親の波平の登場場面が多い。したがってカツオと波平が1～2位の上位を占めるが，子どもたちの1位がカツオであるのに対し，母親は波平が1位である。また，子どもたちには，3～4位に花沢さん（カツオのクラスの嫌われものの女の子）の名が出ているのに，母親の反応はみられない。おなじように先生，中島くん（カツオのクラスメート），も子どもたちだけである。この他に中学生ではクラス友だちの早川くん，かおりさんに反応がみられる。

表9は，表8と同じように，人物の反応順位を，男子と女子（母親を除く）別にみたものである。1位から4位までの順位は男女とも変らず，カツオ，波平，花沢，サザエの順である。ただそれぞれ女子より男子の方が2倍強の反応がでていることが男女の差といえよう。

5.　ビデオによる表情観察

被験者の刺激ビデオ視聴中の表情や身体の動きをビデオカメラで観察記録した。GSR 測定のため，右手を固定され，身体を動かさないよう指示されているので，身体の動きは少ない。また，実験場面の緊張があり，表情も予想ほどの変化はみられなかった。ここでは「笑い」の表情をとりあげて検討してみた。笑いには，「にっこり笑う」「くすくすしのび笑い」「プッとふき出す笑い」「フ，フフと含み笑い」「アハハと笑う」に分類された。実験場面なので，いわゆる「高笑い」は皆無であった。笑いの分類に従うと数が少なくなるので，すべて一緒にしてとりあげた。A「原爆体験記」では一切笑いはみられなかった。B「アフリカ象」，C「かさじぞう」，D「サザエさん」について，年齢別にみたものが表10である。表11は男女別（母親を除く）にみたものである。一場面1名の笑いの頻数である。「アフリカ象」では，タイトルの文字画像のとき，象のお尻のアップの映像があり，中学2年女子のひとりが笑い，周囲の女子がつられて，しのび笑いがとまらなくなっている。「かさじぞう」で小学5年に笑いが多いのは，タイトルが出たとたんに笑

表7　サザエさん（音声による反応場面数）

( )%

	会　話 6分16秒	台詞の間 0分26秒	チャイム 0分06秒	タイトル他 3分09秒	計 9分57秒
小　2	58 (62.4)	4 (4.3)	2 (2.2)	29 (31.1)	93 (100.0)
小　5	54 (61.4)	2 (2.3)	3 (3.4)	29 (32.9)	88 (100.0)
中　2	39 (60.0)	4 (6.2)	2 (3.1)	20 (30.7)	65 (100.0)
母　親	19 (38.8)	5 (10.2)	0 (0.0)	25 (51.0)	49 (100.0)

表8　サザエさん

人物による反応順位（年齢別）　（ ）内，反応数

小　2	小　5	中　2	母　親
① カツオ (27)	① カツオ (23)	① カツオ (15)	① 波平 (9)
② 波平 (10)	② 波平 (10)	② 波平 (6)	② カツオ (6)
③ サザエ (9)	③ 花沢 (5)	③ 花沢 (5)	③ サザエ (1)
④ 花沢 (6)	④ サザエ (4)	④ 中島 (4)	〃 ワカメ (1)
⑤ 先生 (2)	〃 先生 (4)	⑤ サザエ (3)	〃 舟 (1)
〃 植木屋 (2)	⑥ 舟 (3)	⑥ マスオ (1)	〃 植木屋 (1)
⑦ マスオ (1)	⑦ ワカメ (2)	〃 先生 (1)	
〃 中島 (1)	⑧ タラ (1)	〃 かおり (1)	
	〃 中島 (1)	〃 舟 (1)	
	〃 植木屋 (1)	〃 早川 (1)	
		〃 植木屋 (1)	
計 (58)	(54)	(39)	(19)

表9　サザエさん

人物による反応順位（男女別）（ ）内，反応数

男　子	女　子
① カツオ (45)	① カツオ (22)
② 波平 (16)	② 波平 (10)
③ 花沢 (11)	③ 花沢 (5)
④ サザエ (10)	④ サザエ (4)
⑤ 中島 (4)	〃 先生 (4)
⑥ 先生 (3)	⑥ 舟 (2)
⑦ ワカメ (2)	〃 マスオ (2)
〃 植木屋 (2)	〃 中島 (2)
〃 舟 (2)	〃 植木屋 (2)
⑩ タラ (1)	⑩ かおり (1)
〃 早川 (1)	
計 (97)	(54)

表10　笑い（年齢別）

(1)

アフリカ象	母象	子象	母象と子象	タイトル他	計
小　2	1	5	4	4	14
小　5	1	2	0	0	3
中　2	1	14	5	27	47
母　親	6	60	3	6	75

(2)

かさじぞう	会話	ナレーション	台詞の間	BGM	効果音	タイトル他	計
小　2	4	0	1	0	0	5	10
小　5	23	27	3	1	0	14	68
中　2	2	4	1	0	1	7	15
母　親	2	0	0	0	0	0	2

(3)

サザエさん	会話	台詞の間	チャイム	タイトル他	計
小　2	13	0	2	7	22
小　5	29	0	0	28	57
中　2	20	1	0	15	36
母　親	283	11	0	120	414

表11　笑　い（男女別）

(1)

アフリカ象		母　象	子　象	母象と子象	タイトル他	計
小 2	(男)	1	0	0	1	2
	(女)	0	5	4	3	12
小 5	(男)	0	0	0	0	0
	(女)	1	2	0	0	3
中 2	(男)	0	2	0	3	5
	(女)	1	12	5	24	42

(2)

かさじぞう		会　話	ナレーション	台詞の間	ＢＧＭ	効果音	タイトル他	計
小 2	(男)	3	0	0	0	0	2	5
	(女)	1	0	1	0	0	3	5
小 5	(男)	2	0	0	0	0	3	5
	(女)	21	27	3	1	0	11	63
中 2	(男)	0	2	0	0	1	1	4
	(女)	2	2	1	0	0	6	11

(3)

サザエさん		会　話	台詞の間	チャイム	タイトル他	計
小 2	(男)	12	0	0	4	16
	(女)	1	0	2	3	6
小 5	(男)	2	0	0	4	6
	(女)	27	0	0	24	51
中 2	(男)	15	0	0	6	21
	(女)	5	1	0	9	15

い出しており，とくに女子に多い。「サザエさん」では，母親が著しく多くなっており，「会話」や「タイトル」にとくに目立つ。「セリフの間」も画像のギャグがあり，それも母親が多くなっている。このように母親の反応が多いのは「サザエさん」が，早いテンポの会話で，画像のギャグが多く，タイトルやエンディングでは，ふき出しのセリフが文字で映されることと関連している。

Ⅳ　考　察

1）GSRの皮膚抵抗の低下は母親が持続時間が長く，ついで中学生，小学５年生，２年生と年齢が低いほど，振幅が多い形となり，年齢が高いほど映像の流れの文脈を理解して反応しており，年齢が低いほど場面転換などに反応しているのが明らかである。したがって，反応数は年齢が低くなるにつれ，多くなっている。この点，昨年度も同じ結果を得ているが，今年度は新に小学２年生を被験者に加え，一層，明確な結果をみることができた。また，年齢が近いほど，合致率は高く，反応が類似していると考えられる。

2）男女別（母親を除く）でみると，どの学年でも，また，どの刺激種目でも，男子の方が女子より反応数が多くなっている。反応数だけでなく，母親との合致場面でも女子の方が割合が多く，男子より女子の反応が母親に近い，つまり，年齢の高い反応傾向であるといえる。

男子と女子の合致度は，「かさじぞう」「サザエさん」ともに42％弱と多く，「アフリカ象」でも26％弱の合致であり，母親ともっとも合致度の高い「サザエさん」女

子の24%を上廻る。つまり，母親とよりも子ども同士の男女の方が反応場面の合致度が高いといえよう。

「笑い」の状況は，男子が個々それぞれであるのに比べ，女子はひとりが笑うと周囲に伝播していき，しのび笑いがとまらなくなる特徴がみられた。

3）各刺激別の反応特徴

「原爆体験記」の反応特徴は，緊張の連続である。画像（昨年度）や音声別に反応をみると，語り手以外のアナウンサーなど場面転換した場合では低年齢ほど反応が多くなっている。小学・中学・母親の3群の一致した反応場面は，語りの内容が衝撃的なところと「何だろう」と期待するところ，そして「原爆ドーム」の個所（周知している物の画像）である（昨年度紀要）。

「アフリカ象」の反応では，小学2年生が圧倒的に反応が多く，小学5年の倍近くになっている。そして年齢が高くなるほど反応が少い。小学2年生のみの反応も多く，場面が変るごとに反応が出ている。このビデオは，バックの音楽はピアノ曲で，ことばの説明もなく，ゆったりと象の母と子が動いているだけの画像である。

このような映像が十分理解でき十分興味がもてるのが小学低学年ということができよう。幼児でも集中して視聴する材料と考えられる。なお，全年齢群が一致して反応しているのは，タイトル・音楽が流れはじめる・象の動きの面白い（水槽に鼻をいれるなど）の3場面である。

「かさじぞう」については，小学5年生が特に反応が著しく，タイトルが出ただけで反応するなど，国語教材との関係（授業で学習）が明らかにみられる。全年齢群の一致場面は，タイトルとエンディング，場面の期待と，場面の一区切りのところであり，言いかえれば，楽しい所，ハッとするところ，ほっと一息つく所といえる。

「サザエさん」では，他の刺激種目と比べて反応が多いことが特徴的である。また，年齢群が低いほど反応の多いのは他の3種目と変りないが，笑いの回数では逆に年齢が高くなるにつれて多くなっている。これは，早いテンポ，ふき出しの字，画像によるギャグなどは，母親によく理解されるが，年齢が低いと困難であることを示しているといえよう。登場人物への反応は，母親だけが波平で，他群はカツオが1位である。波平の出る場面はおとなの会話のユーモアが多いためと考えられる。また，学校の「チャイム」や先生と友だちには，子どもたちは反応を示すが，母親にはみられない。自分の生活と身近なものにとくに関心が強く示されている。

総　括

昨年度のGSR測定では，小学高学年・中学生・母親の傾向を把握したが，今年度は小学低学年を加えることにより，一層，年齢別群の特徴を明らかにすることができた。今回は昨年の緊張・興奮の連続であった「原爆体験」を語るビデオに加え，動物のドキュメント「アフリカ象」，アニメのゆったりした映像日本昔噺「かさじぞう」，アニメの早いテンポの「サザエさん」を刺激材料として，それぞれの映像の特質による反応の差を明らかにすることができた。また，笑いの観察から，ユーモアの理解の発達，男女の差が明らかにされた。

今回の研究に際し，玉川大学文学部助教授，方勝氏に，諸設備の調整や被験者の選択など多大な御協力を得ました。ここに深く謝意を表します。また，実験，結果の整理に参加いただいた段木委子氏に感謝いたします。

なお，本研究は，一部，財団法人放送文化基金の助成・援助を受けました。

Analyses of Video Media and Children's Receptive Attitudes (2)

—In Comparison with Adults'—

Michiko HOSHI, Taneaki TAKAHASHI
Reiko YUKAWA, Susumu SUNAGA
Shigeo OUCHI, Akira OKADA
Hideo NAKASA, Tamotsu YAMAMOTO

I. Purpose

The purpose of the present study is to analyze children's receptive substance of video media and reactions to them in comparison with those of adult people from the sides of sound growth of children and of generation interchange.

II. Method

1. Procedure

1) Stimulus videos presented–The Record of Atomic Bomb Experience "Do you know what war is?". A Message to Children -"Mama, I want water" (36 minutes), B. Documentary–"Parent and Child of African Elephant" (11 min. 37 sec.), C. Animation "Japanese Old Story Kasa Jizo (a guardian diety of children with a bamboo hat on his head)" (12 min. 34 sec.), D. Animation "Sazae-san" (9 min. 57 sec.)

2) The subjects were asked to watch these videos and their G. S. R. (Galvanic Skin Reflex) were measured. On the other hand, the expressions and physical reactions of the subjects were video tape recorded.

3) Ten subjects were measured at one time on 2 G. S. R. measuring instruments, i. e. composite reactions of 5 subjects were measured on each instrument.

2. Subjects

As to the stimulus video A. The Record of Atomic Bomb Experience, the experiment was conducted last year. The subjects of the present study were the second and the fifth graders of elementary school, the second graders of junior high school (5 boys and 5 girls in each grader) and 10 mothers from ages of 30 to 40.

III. Results and Comments

1) The fall of skin resistance of G. S. R. was kept long in mothers and its amplitude was found the more frequent in the subjects the younger they were. It is considered that mothers reacted to the context of the story while elementary school pupils reacted to the conversion of the picture areas. Since the second graders of elementary school were added in the present study, the result of the last year's experiment has been more clarified.

2) Examining the reaction frequency of the subjects in I minute, the second graders of elementary school showed the most frequency, then the fifth graders, the second graders of junior high school and mothers in order of frequency. Boys indicated more frequency than girls did. Observing the reaction frequency by stimulus video items, "Sazae-san" showed the most frequency (7.4) and other 3 items: "The Record of Atomic Bomb Experience" (6.8) "African Elephant" (6.6) and "Kasa Jizo" (6.5) showed almost the same reaction frequency.

3) Looking over the number of agreed scene of the reaction, the agreement degree was high when the ages of the subjects were close. which indicates the similarity of their interests and concerns.

In future, we hope to further our study expanding the age bracket.